

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
 Art information of Fuji city
 Culture Magazine ROSE
 夏 Vol.28 号
 SUMMER 1999



Vol. **28**



ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1999年7月発行 (第28号)
 発行 (財)富士市文化振興財団 〒416-0931富士市蓼原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
 企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 株式会社マグナプロセス



『ハロー・マイタウン』

昨年実施した市民創作ミュージカル「新・曾我物語」名残りの小袖は多くの皆さんから賛辞を頂き、開館以来の市民創作ミュージカルが着実に根付いていることの証しとして、明日に向けて大きな希望を持つことができました。

この市民ミュージカルが今後大きく育っていくには、若い力が必要となつてきます。財団では今年青少年を対象としたミュージカルスクールを開校します。小学生から高校生まで約五十人の子供たちが夏休みの期間、演劇家の三浦先生の指導と「小袖」のスタッフの協力のもとミュージカルを通してふるさとを再発見し、夢と希望の世界へ出発します。

限らない子供たちの可能性を秘めた八月八日の発表会、「ハロー・マイタウン」のご期待！

脚本・演出・振付 三浦 克也
 作曲・編曲 海田 次朗
 歌唱指導 辻村 典枝
 稽古ピアノ 渡辺 静香
 振付助手 佐野 美帆
 演出助手 小林 清彦
 衣装製作 志田 澄美
 牧野 ちや子



富士の子供たちがこの夏、ミュージカルでふるさと再発見

「ハロー・マイタウン」テーマソング

ハロー ハロー 新しい友達
 ハロー ハロー 新しいこの町
 初めての挨拶は こんにちは
 ポンジュール ニーハオ チヤオ
 そして
 ハロー ハロー 新しい友達
 ハロー ハロー 新しいこの町

ハロー・マイタウン ぐるりと見渡せば
 ハロー・マイフレンド 知らなかった
 世界が見えてくる
 探しに行こう 見つけに行こうよ
 夢と冒険のファンタジーみんなが待ってる秘密の物語
 夢が広がるよ 新しいお話
 胸がときめくよ 新しい世界
 きつと素敵だよ
 誰にだって出会えるはずさ
 僕も わたしも あなたも YOUも
 さあ出発だ
 ハロー ハロー……

あらすじ

第一景「神様と天狗の山つくり」
 神様がいたずら好きの天狗をこらしめるために日本一高い山づくり競争をした結果、富士山が出来たお話。

第二景「キツネの話」
 富士山の森に住む、おせんとおこんの二匹のキツネが森の動物たちを守るため人間を次々と化かすお話。

第三景「猫のタマ」
 タマのご主人せんべいさんが病気になるってしまいい、ご主人を救うためタマは村中の猫を集め神様にお願ひするお祭りでおどりました。この「猫の踊り場」は今でも残っています。

第四景「フイナール」
 郷土の昔話、伝説を知りこの街のすばらしさを再発見した子供たち、夢と冒険を求めて全員が声高らかに「ハロー・マイタウン」を歌います。

思い出の夏休みづくりに練習開始！

期待に胸を膨らませて、参加者の初顔合わせとなった六月二十日、青少年サマー・ミュージカルスクールの開校式が行なわれました。三浦克也校長先生をはじめ講師・スタッフの紹介やスケジュールなど、夏休みの思い出づくりのスタートを切りました。

「ハロー・マイタウン」(こんにちは、わたしの町)は富士市に伝わる昔話、伝説を元に、どの話をどうアレンジしようかとあれこれ脚本を練りました。かぐや姫「竹取物語」や源頼朝の話など富士市をはじめ全国にある有名な話ではなく、あまり知られていないお話を選んで考えました。

「もしかぐや姫と牛若丸が会ったいたら?、しかもそのキューピット役が鬼の弁慶

だったらなんて考えると楽しくて仕方ありません。それに現代人がその時代にタイムスリップしたらいったいどんな風になるんだろ?その逆もしかり。考えれば考えるほど色々な世界が生まれて来ます。

子供たちの頭の中にはそんな夢の宝物がたくさん入っていると思います。その夢の世界を大事にしてもらい、新しい夢を見るため新しい世界を触れさせてあげることです。それは知らなかった昔話や伝説で、今回のサマー・ミュージカルを通して新しい夢の世界を切り開いてくれる。こんなに嬉しいことはありません。

サマー・ミュージカル校長 三浦 克也

富士の子供たちがこの夏、ミュージカルでふるさと再発見



ミュージカルを支えるボランティアスタッフ

小林清彦 (役者)

市民ミュージカル「ディアナ号」「名残りの小袖」に出演して人に見せる舞台の難しさと楽しさを勉強しました。ミュージカルは踊り・歌・台詞などそれぞれの違った表現方法が集まった舞台だと思っています。その部門、部門のバランスが取れなくては良いミュージカルと言えないんじゃないですか。

演出の三浦先生と共に、ロゼシアターの舞台でミュージカルが出来るので今回も楽しみです。また多くの仲間を増やしていきたいですね。

立石光博 (役者・衣装デザイナー)

自分がこれまでに経験したことが役にたつといいですね。子供たちがミュージカルって楽しいものだと思って、芝居・演劇に興味をもってもらうきっかけ作りを行いたいと思います。

でもただ楽しいだけでは無く、たいへんなことも体験し、ミュージカルの練習を通して団体のルールや社会のマナーなんかも覚えてもらえば最高ですね。

佐野悦代 (メイク・舞台進行)

公演の幕が閉じ観衆に喝采を受ける時、華やかな舞台の裏には多くのスタッフがいることを知ってほしいですね。

芝居には表と裏があります。「小袖」の時は子供たちは常に表に出ていましたが、今回は裏方も勉強させてあげたいと思

志田澄美 (役者)

演出の三浦先生が「小袖」のパンフレットに書かれていた「市民ミュージカルは継続することが大切」が実現されてとても嬉しく思っています。各地でアマチュア劇団がブームとなっている今、富士市ではロゼシアターがやっていることが次世代の市民演劇に大きな影響を残すことになると思っています。

これからも市民演劇に関わっていく、たくさんのお仲間を作りたいですね。今回の子供たちは富士市のアマチュア劇団のジュニアチームってとこかな。

佐野美帆 (振付助手)

私たちの子供の頃はみんなが集まって鬼ごっこをしたりゲームをやったり、子供同士で何かをやって遊んでいました。

でも今の子供が外で集まって遊んでいる姿を見かけなくなりました。大きな声を出したり、みんなで歌を歌ったり、そんな自分を思い切り表現できる場を与えてあげたいですね。

大きな舞台で大勢のお客さんを前に自分自身で演技する。ダンス・歌・台詞のひとこと一言が忘れられない思い出になると思っています。



青少年サマーミュージカル発表会「ハロー・マイタウン」8月8日(日) (2回公演) 入場無料

『俳句をやる幸せになるよ』 それが氏の口癖だった…。

「五・七・五」の十七文字の短詩型に人生を見出し「眼前直覚」論を信条として「いま」「ここ」「われ」を俳句の尺度に自在の境地を開いた日本俳壇の重鎮・上田五千石。展示会では、第二の故郷富士市において市民と共に歩んだ氏の活動を軸に、その六十二年の俳句に捧げた生涯を振り返ります。



富士市の足跡

岩本山公園（岩本） 田園句碑



遠浅の水清ければ桜貝
萬緑や死は一弾を似て足る
渡り鳥みるみるわれの
小さくなり
もがり笛風の又三郎
やあーい

瑞林寺（松岡）



青嵐渡るや加嶋五千石
こゑにせず母呼びてみる
秋の葉

入瀬浅間神社（入山瀬）



みどり新たに椎の兄
柿の弟

もくもくタウン（豊原）



手斧始もとより尺の
富士ひのき

富士市立
富士中央小学校
（五味島）



校歌作詞

- ### 上田五千石氏プロフィール
- 1933年 10月24日東京都渋谷区代々木山谷町に生まれる。本名明男。
 - 1947年 富士郡岩松村（現・富士市）に転居。同県立富士中学校（現・富士高校）に転校。同校文芸誌「若帖」に「青嵐渡るや加嶋五千石」を発表。父の命名で俳号を「五千石」とする。
 - 1953年 上智大学文学部新聞学科に入学。
 - 1954年 母のすすめで句会に出席。秋元不死男氏と出会い、即刻入門。「氷海」入会。
 - 1968年 上田五千石句集「田園」を春日書房より刊行。
 - 1969年 第8回俳人協会賞受賞。第8回静岡県文化奨励賞受賞。
 - 1971年 富士市松岡・瑞林寺内の自宅において句会「畦」を開く。
 - 1973年 「畦の会」の会報として小冊子「畦」を発行、これをもって上田五千石主宰誌「畦」の創刊とする。
 - 1978年 俳句「森林」を刊行。
 - 1982年 句集「風景」を刊行。
 - 1986年 「畦」150号記念号刊行。同号に論文「眼前直覚」を発表し、「いま、ここ、われ、をうたう」五千石理念を明らかにする。
 - 1992年 富士市文化振興財団理事に就任。句集「城山」刊行。以後俳句文庫「上田五千石」文庫本「遊山」文集「春の雁」他を刊行。
 - 1997年 角川書店より「旅と風景句」上田五千石編を刊行。9月2日逝去、享年63歳。

現代俳壇の重鎮であった上田五千石氏が急逝されて、今年はいよいよ三回忌となります。氏は富士市と関わりが深く、青春から五十歳まで富士市に居住し、この間に処女句集「田園」を上梓し、それにより俳人協会賞を受賞。また句会「畦」を結成し多くのの人々に俳句を通して生き方のすばらしさを提唱し、当財団発足当初から理事としても活躍され、地元富士市の文化の向上発展にも多大なる功績を残されました。そこで、生前の氏の功績を顕彰し、広く市民の皆さんに披露するために回顧展を開催します。今回はその内容の概略をご紹介します。また、五・六頁では氏が私淑していた芭蕉について長女の上田日差子さんに伺いました。

上田五千石

回顧展

八月三十一日（火）〜九月八日（水）
9:00〜19:00

- ### 展示内容
- ◎履歴
氏の生い立ちから俳句との出会い、富士市民との句会「畦」の活動、俳壇の重鎮として活躍されるまでの履歴を写真を通してわかりやすく紹介します。
 - ◎句碑
全国各地に点在する氏の句碑を地図や写真・模型、またこの回顧展にあわせて制作したビデオにより紹介します。
 - ◎句集と作風
氏の句集「田園」「森林」「風景」「琥珀」「天路」や作風を、著書のイメージ写真や自筆の句などで紹介します。
 - ◎今に生きる氏の遺志
「畦」より新しい句会の発生、その句誌・句会を紹介します。
 - ◎遺品
氏の愛用の時計など、貴重な遺品の品々を展示します。



庭中の
名だたる竹も
竹の秋
仁藤宏之助氏宅（浅間本町）

おまかげのいつのいつまで冬あたたか
石川氏宅（横割）

師は人をすぐに覚えるのが
特技でした。

仁藤宏之助さん
（展示準備委員会代表）

五千石先生とは二十年前頃、伝法に転居された時からの付き合い合いです。師は身近にいて生き方を豊かにしてくれる人でした。私達にいつも「俳句をやる幸せになるよ」と口癖のように言っていました。



私も自然を相手に仕事をしています。自然の中で生きていく証とか喜びを言葉・俳句にすることは一番の

幸せです。師から教えられた「生きることの喜び」を多くの人と分かちあいたいのです。俳句は「衆の文学」といえます。「畦」の会員は全国に千人以上いました。五千石先生は人をすぐに覚えてしまうのが特技でしたから、会員も先生に親しみを持っています。

ました。展示では師の偉大さと俳句の楽しさを多くの人に味わっていただきたいと思えます。

市民とのふれあい 投句募集



回顧展の市民参加イベントとして、「投句ポスト」を展示期間中会場に設置します。（開催前はロゼ・チケットセンターに設置）あなたの力作をお待ちしています。

青少年俳句クリニック

投句された句の中から学生の作品を選考し、「青少年俳句クリニック」と題した教室を開催します。

- 開催日 九月四日（土） 午後一時三十分
- 場所 ロゼシアター展示室
- 対象 富士市在住の高校生までの学生
- 講師 上田日差子先生



封人の家

“翁追ふ旅寝みじかし合歡の花”
五千石
という句を残している。その足で羽黒山を訪ねた時に詠んだ句が、句碑にも記された次の句である。

“炬火を継ぐ声に澄みゆく小国川”
を献じたのであった。であるから、最上町の句碑は作句年度の違えがあるのである。本来は国体の折りの句だけという町の意向であったが「初茄子」の句への師の



上田日差し (ヒザシ)
Hizashi Ueda ● PROFILE
故上田五千石氏の長女
俳句誌「ランブル」主宰
句集「日差集」、
随筆集「子育ての十七音詩」がある。
東京都渋谷区在住

父にとって芭蕉は、俳句においても人生においても、生涯の偉大なる師であった。芭蕉の俳句は、念持仏のごとく父の脳裡にあった。また、芭蕉の俳論にも深く傾倒し、愛用の岩波文庫版『去来抄』は、ボロボロになるまで耽読していた。

まさに父の芭蕉への私淑は、信仰であるといえるかもしれない。
父の俳句持論「眼前直覚」や「取合せ」論も、元をたれば芭蕉が言わんとしたことである。父は、現代の、自分の言葉で、自作に即し芭蕉の言葉を伝えつづけた。

また、芭蕉没年の五十一歳という齢に達した時に、
“身に入むといふこと沁みて齡足す”
五千石
という一句を詠んでいる。すでに翁たる芭蕉の齢と等しくした時の父の思いは、「身に入む」の季語に言い尽くされている。

昭和五十七年頃より、父は芭蕉の足跡を訪ねるべく努めて旅をするようになった。「奥の細道」でも知られる象潟に入ったのは、平成元年のことである。そこで父は、

“手玉にもとろや出羽の初茄子”
五千石
という句を残している。その足で羽黒山を訪ねた時に詠んだ句が、句碑にも記された次の句である。

芭蕉と父

みちのく句碑建立の周辺

上田日差し



“手玉にもとろや出羽の初茄子”
五千石

この句は父としてはたいへん自信作であったらしく、山形県最上の門弟の首第五氏に、「芭蕉さんには、どうしても敵わないが、この初茄子の一句だけは、芭蕉さんの句（めづらしや山を出羽の初茄子）より俺の方が上だナァ」と笑って父が話したのだそう。

それから三年後の平成四年、父は再びみちのくに入り、国体の炬火採火記念詠句として

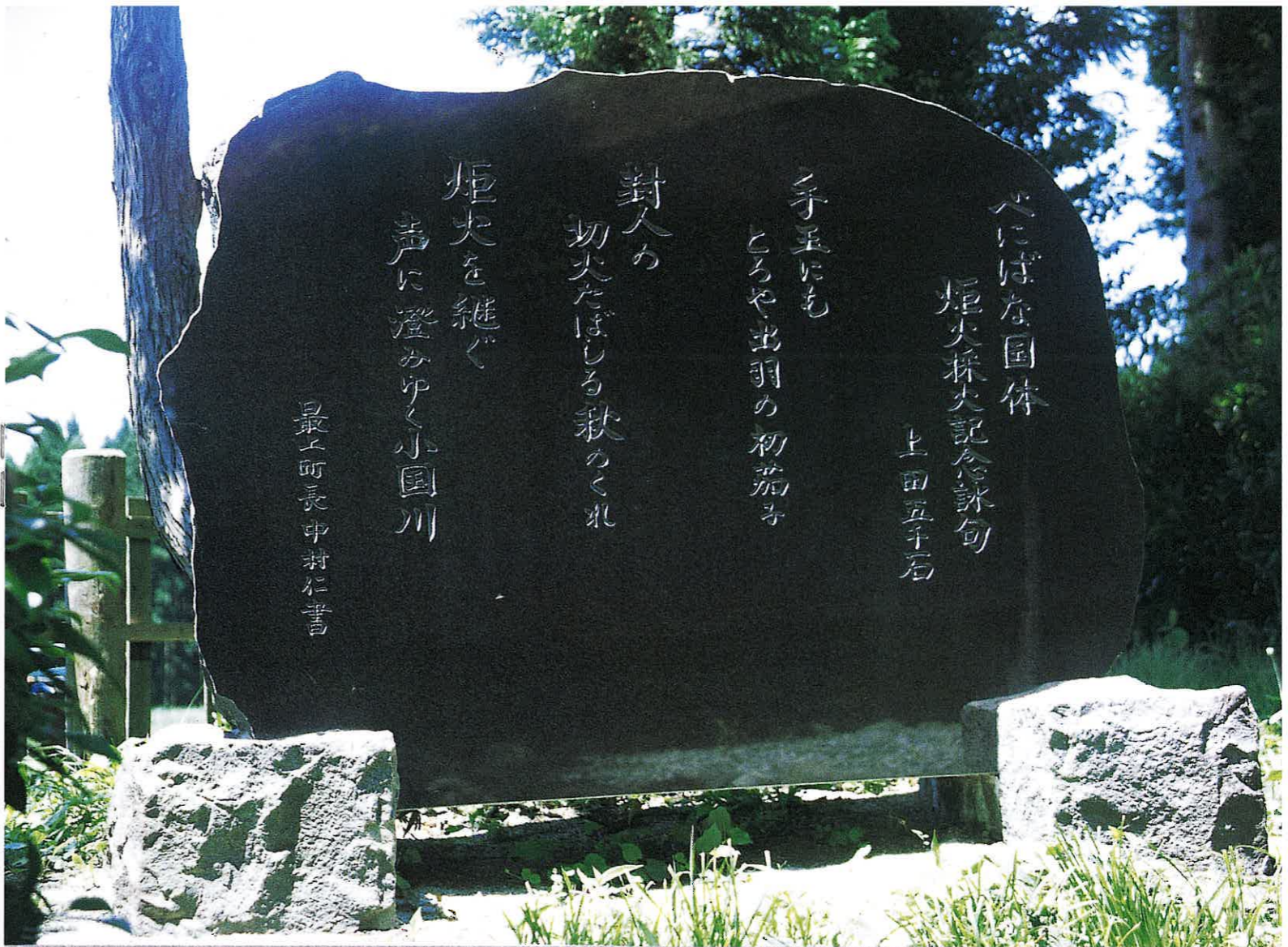
“封人の切火たばしる秋のくれ”

“炬火を継ぐ声に澄みゆく小国川”

を献じたのであった。であるから、最上町の句碑は作句年度の違えがあるのである。本来は国体の折りの句だけという町の意向であったが「初茄子」の句への師の



思い入れは徒らなと受けとめた菅氏が、出羽国に対する挨拶句だと申し出、最上町長の筆による立派な句碑となったわけである。
句碑の建立は、父の亡くなった翌年の平成十年七月五日に行われた。見事な青田晴の中、夏鶯の声も高らかに除幕された。重要文化財封人の家に、芭蕉の「虱馬の尿する枕もと」の句碑と共に父の句碑が、未来永劫に残されていくことは幸せなことである。
常日頃「芭蕉さんと話したいナァ」と願っていた父であるから、今度は天上で熱っぽく芭蕉に俳句論を尋ねているにちがいない。



べにばな国体
炬火採火記念詠句
上田五千石
手玉にも
とろや出羽の初茄子
封人の
切火たばしる秋のくれ
炬火を継ぐ
声に澄みゆく小国川
最上町長中村仁書

石 千 五 田 上

手玉にもとろや出羽の初茄子

封人の切火たばしる秋のくれ

炬火を継ぐ声に澄みゆく小国川

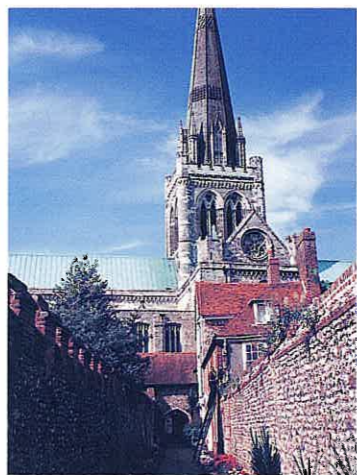
山形県最上町
重要文化財封人の家に建立されている
芭蕉の句碑と並ぶ
べにばな国体炬火採火記念詠句



奥の細道
尿前の間の芭蕉像（宮城県鴫子町）

「うらやましいコンサートの数々」 —英国音楽事情—

イギリスに来て九ヶ月も経つと、人々の生活の中にもさりげなく音楽が浸透している事に気づく。私の周りには子供の頃から複数の楽器に触れ、何らかの楽器を生業として持ち続けている人が多い。又、音楽を聴く機会が多い事も確かだ。



茅原初子

茅原初子(ハツコ・カヤハラ)は、五月にはデューク・エリントン生誕百周年記念としてエリントン・マラソンと題した催しが行われた。午後十二時三十分よりロビーでは各地から集まって来たアマチュアジャズバンドが次から次へと演奏を繰り広げ、ホールではエリントン在りし日のコンサートフィルムが上映され、夜になるとラロのバンドの演奏もあり、目いっぱいスケジュールだがそれぞれがほぼ満席の状態である。

●食事をしながらジャズを

また、どちらのホールも広いロビーでは軽食がとれるようになっていて、特にフェスティバルホールの方では、ランチタイムコンサートが水曜から土曜、イブニングコンサートが金曜にあり、どちらも無料でジャズを聴くことが出来る。常に人がいっぱいそれぞれ食べ物、飲み物片手に心癒し込んで聴いている。

この国では歳に関係なく学生には学生証を発行してくれ、これがあればコンサートは



学生料金で聴くことが出来る。お陰で学生の身分では素晴らしいコンサートを千円から千五百円で聴かせてもらっている。
しかし、クラシックコンサートの聴衆に若い世代が少ないのは、ちょっと淋しい気がする。時代は変わってきているのかなとも思う。それでも、子供を対象としたコンサートも毎月必ず組んであり、子供たちを育てる事を決して忘れてはいない。
今の時期、短い夏を思いっきり楽しもうと国中至る所で、野外コンサートが開かれている。コンサート開始前からピクニックが可能なので、それぞれ椅子、テーブル、食べ物、飲み物などを持ち込み、食事やコミュニケーションを楽しみながら音楽も楽しむと言った具合だ。これも広大な公園や駐車スペースがあればこそ出来る事で、我が町富士市ではちょっと難しいかなと思う。なだらかな丘と少ない人口のこの国だからこそ可能な事なのだろう。

茅原 初子 Hatsuko Kayahara ● PROFILE

富士市でかやはら音楽事務所を主宰、フルートを川崎優、白石孝子氏に師事。富士ミュージックフルートアンサンブル会長、日本フルート協会理事、静岡県フルート協会副会長、英国静岡県人会会長。
現在、アレクサンダー・テクニク教師資格取得のため英国に留学中。オックスフォード在住。



あるドイツ田舎町のアイデア

「アートモンタン」フェスティバル

内藤 閑喜

◎アウエ・シュバルツェンベルク郡 (A S郡)
ドイツ、ザクセン州の南西部に位置するA S郡は面積五万三千平方キロメートル、総人口十五万四千人、八市二十六町村から成る。この地はエルツ山系にあり、以前は錫鉄鉱業で栄えた。廃山後の今日は一年を通じて休暇保養地として人気がある。州最大のソーサダム、ドイツ最大級のマルカースバッハ揚水発電所(M発電所)、シュバルツェンベルク城(写真1)、聖ゲオルゲン教会、旧市街等の名所を多くの人が訪れる。

◎廃鉱内のコンサートホール

A E郡の「アートモンタン」は地方で企画運営する文化政策事業として異彩を放っている。一九九〇年に錫鉄鉱業が廃業になり今は見学するだけとなった旧採鉱場アエラは約三キロメートルの山中内、地下百メートルの所にある。客はランプ付きヘルメットを被り約二十分の道程をトロッコで会場となる大空洞通称「錫の広間」に到達。周囲にある小空洞で演奏を聴く(写真2)。M発電所ではやはり外から約二キロメートルのトンネル内、地下約百メートルに位置する機械設備のある横穴空間がホールとなる。いずれも特異な場所でのオリジナルな音響体験が目玉となっている。

◎新しい発想—伝統と芸術の統合

広義に「山中の芸術」を意味する「アートモンタン」は伝統と新しい文化芸術を統合するプロジェクトである。今年には三回各々異なるテーマでコンサート等の催しが予定されている。「山中のクラシック」(五月)、「鉱業と伝統」についてのシンポジウムと「山中の光と形」(九月)、「それに」山中のクリスマス(十二月)等で構成されている。
鉱内での鉱夫は「光」という言葉とは全く無縁であったことから、新しいプロジェクトでは特に「光」を意識したという。鉱山に息吹を与え再び伝統ある鉱山史の中に位置づけるといふ目的から、ここでは「光」が不可欠であるコンサートという形が採用された。音楽を通じて山の存在を感覚的に体験させようという目論みがある。



◎二千年時代の響き

招待された出演団体もプロジェクトの目的に相応しい。
初日は、カール・マトウコ郡長の開会の挨拶(写真3)に続いて「二千年時代の響き」によるモーツァルトをテーマとしたコンサートが開かれた。レナート・ロジツチュ・コンソートケ

ルン「エストレーティカ・ヴァ」(写真4)によるハイエンドギター、マンドラ、アーチリュート、各種リコーダー、コントラバスのユニークな編成でのモーツァルト作品とチェコ、カールロヴィ・ヴァーリー・シンフォニーオーケストラのブラームスとドヴォルザーク作品とが交互にジョイントコンサートの形で演奏された。
二日目は、アエラにて「ジャズ・セバスチャン・バグ」のテーマでレナート・ロジツチュ・コンソートによるバグのジャズ演奏、及びシュネーベルグ専門大学のレーネ・ケッツによる実験的モードデサイインショーがやはり同氏の太鼓伴奏で行われた(写真5)。
三日目は、シュバルツェンベルク城にてライブチャピのアルトロ・トリオによる「古楽器と若者」という対比テーマが選ばれ、レーガー、バックス、メンデルスゾーンが演奏された。



◎レナート・ロジツチュ氏(R氏)

(写真6)の世界

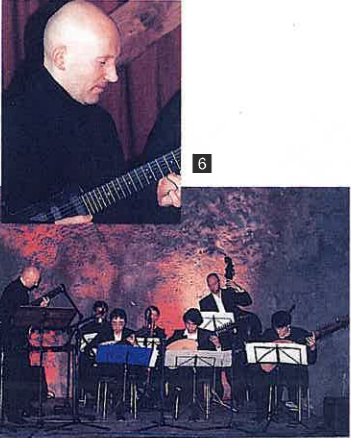
新しい響きによる音楽美を追求するR氏はバグとモーツァルトにジャズリズムのような生命力に溢れた演奏を目指している。彼らの作品における真正な演奏スタイルではかなりの自由度があり、その作品を解釈するのではなく演奏することは、まさにリズムの流暢さ、明瞭なメロディー線、ポリフォニーの流れにおいてジャズ演奏と類似しているという。

◎「陽気ぐらし」へのアイデア

フェスティバル期間中の訪問者数七百人の大半は元鉱山関係者で、前売り段階で完売した。九月にはドイツ鉄道(DB、日本のJRに相当)トンネル内のコンサート、M発電所でのオペラ、シュレマ鉱内での音と光のパフォーマンス等伝統と斬新なアイデアを大胆にリンクした企画が予定されている。
田舎町で、このような勇氣ある企画が致団結して推し進められている事は興味深い。中山みきの唱える「陽気ぐらし」に通じた神の支援があるのかもしれない。



5



4

* (註記)
(1) ハイエンドギター:レナート・ロジツチュ、マンドラ:筆者、アーチリュート:蓮見岳人、アンドレ・ヘンリッヒ、リコーダー:ダニエル・ローテアト、アンゲラ・エリッング、コントラバス:ヴィニー・ホルツェンカム
(2) 天理教教祖、1798~1887

マンドリン制作・演奏家
内藤 閑喜
Yasuyoshi Naitoh ● PROFILE
富士市出身、現在ドイツ・ケルン市在住。
海外のさまざまな文化情報を新しい切り口で取材し、レポートを送っていただいています。

8 AUGUST

日	曜日	ホール	イベント
1	日	大	第16回ジャズダンス発表会
		中	全労済富士地区共済会加入者のつどい
8	日	中	サマーミュージカルスクール「ハロー・マイタウン」
		小	八十の会サロンコンサートⅧ
9	月	大	ファミリー映画会「トイ・ストーリー」
		小	主任研修会
10	火	中	介護保険制度講演会
		小	富士市公立幼稚園研究会
11	水	大	平成11年度 富士市青少年会議
		小	ピアノ発表会(大石)
12	木	大	富士市教職員表彰 教育講演会
		小	リトルエンジェルス'99
14	土	小	第4回平和へのメッセージ
15	日	中	富士市戦没者追悼式
		小	第1回梅華一門浴衣会
21	土	小	Amiche Placevoli
22	日	中	泉裕紀 師範20周年記念日本舞踊公演
		小	第10回藤の会演奏会歌の夕べ
24	火	小	第35回仲澤裕恵門下生ピアノ発表会
26	木	小	グラッツィオーン マーガレットコンサート
27	金	中	ピアノ発表会(海田)
28	土	中	松竹大歌舞伎 片岡仁左衛門襲名披露
		小	ピアノ発表会(渡辺)
29	日	大	サマー歌謡コンペ
		中	富士市青少年の船事後研修
		小	ピアノ発表会(伊藤)

※一般員出事業については、平成11年7月上旬までの受付分です。
各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。
□ロゼシアター主催事業 ★ロゼチケットセンターでもチケットを扱う予定

展示室のご案内

会期	催し物	会場
8/1	浅井力也 個展	一般
8/1	食中毒防止ポスター展	特別
8/4~9	第19回富士市退職教職員趣味展	一般
8/4~9	市場良子染物展	特別
8/10~15	99平和のための富士戦争展	特別
8/21~22	鈴木道雄近作展	特別
8/26~29	第33回富士市展(第3期)	特別
8/31~9/8	上田五千石 回顧展	特別
9/11~12	第33回科学作品展	特別
9/11~12	第34回富士市発明くふう展	特別
9/15~19	陶芸協会展	特別

9 SEPTEMBER

日	曜日	ホール	イベント
4	土	大	エチオピア国立民族舞踊団 ★
		中	富士市民合唱団第22回演奏会 ★
		小	ムジカローザコンサート
5	日	大	第19回富士市民大学
		中	マリナパランドコンサートVol.6
		小	ピアノ発表会(勝又)
11	土	中	日本ケアシステム全国大会
		小	「生きる力を育む家庭教室のあり方」講演会
12	日	小	ピアノ/エレクoon発表会(佐々木)
14	火	小	三校合同講演会
15	水	中	N.Y.ダンシングキッズ&ダンスナッツおさらい会
		小	ピアノ発表会(市川)
16	木	大	第19回富士市民大学
17	金	大	松原のふえしゅー
		小	仲代圭吾 行代美都コンサート ★
18	土	大	錦織健テノールリサイタル
		中	民族舞踊(チリメキシコ・アルゼンチン)
		小	99年下期静岡ステーク大会
19	日	小	ピクチャー歌謡富士教室第8回歌謡祭
21	火	小	能代律子先生講演会
22	水	中	例会 講演会 富士青年会議所
23	木	大	地域安全富士市民大会
24	金	小	聖書講演会
25	土	小	第13回ピアノ発表会(小林)
26	日	大	第18回星陵高校吹奏楽部定期演奏会
		小	岳南竹友会第13回定期三曲演奏会
28	火	小	リーダーセミナー
29	水	大	第19回富士市民大学
30	木	大	ペレス ブラード楽団

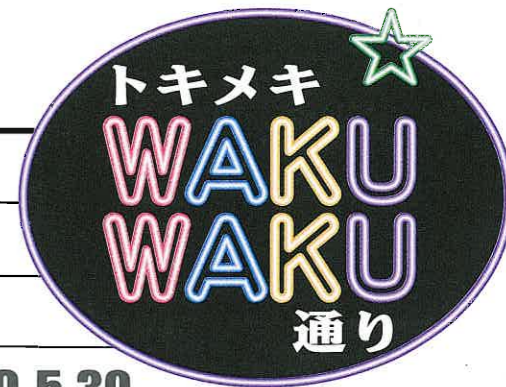
10 OCTOBER

日	曜日	ホール	イベント
2	土	小	チェムパーミュージックコンサート
3	日	大	富士市中学校音楽発表会
		小	カシカシピアノ/デュオ4thコンサート
5	火	大	愛の輪のつどい
		小	リーダーセミナー
7	木	大	スペイン国立バレエ「ボレロ」
8	金	大	第2回富士市悠容クラブ連合会文化祭
		中	第33回富士市総合文化祭 器楽
		小	第33回富士市総合文化祭 大正琴
9	土	小	第33回富士市総合文化祭 小型映画
10	日	中	第33回富士市総合文化祭 詩吟
		小	第33回富士市総合文化祭 演劇
11	月	中	第33回富士市総合文化祭 邦楽
		小	第33回富士市総合文化祭 コーラス
13	水	中	経営方針発表会
		小	平成11年度事業主セミナー
14	木	大	第19回富士市民大学
15	金	中	第12回富士市勤労者芸術祭
		小	自主防災組織リーダー研修会
16	土	小	ユーロアマビル演奏会
19	火	大	富士中文化発表会
		小	リーダーセミナー
20	水	大	田子浦中文化発表会
21	木	中	渡辺美佐子ひとり芝居「化粧」
22	金	大	吉原北中合唱コンクール
		小	渡辺美佐子ひとり芝居「化粧」
23	土	大	ハートフルチャリティコンサート
		中	渡辺美佐子ひとり芝居「化粧」
		小	ピアノ発表会(渡辺)
24	日	中	アクトアズアカデミー公開オーディション
		小	2台のためのピアノ/教室(赤池)
25	月	大	吉原二中文化発表会
26	火	大	岳陽中文化発表会
		小	リーダーセミナー
27	水	大	富士南中文化発表会
		小	親業公開講座
28	木	大	第19回富士市民大学
		中	吉原東中文化発表会
29	金	小	第5回スポーツ医学シンポジウム
30	土	小	第17回ピアノ/エレクoon発表会(植田)
		中	藤の会若衆会合同おさらい会
31	日	小	ピアノ/エレクoon発表会(齊藤)

EVENT Report

May メイ・コンサート

Concert レポート '99.5.30



毎年5月、ロゼシアター恒例のコンサートとして知られるMAYコンサート。その年に音楽大学などを卒業した新人演奏家たちによるこのコンサートも今年8回目を迎え、これまでの出演者は総勢84名を数えます。今年は9名の出演者により、フレッシュで熱の入った演奏会となりました。会場でMAYコンサートファンの声を聞いてみました。



●以前に出演させていただきました。いつも新人の方々と拝見すると初心に戻って新鮮な気分になります。



立石美千絵さん (ピアノ) ▶

●私も音楽を習っていますが、来年この舞台に立ちたいと思います。



露木友美子さん (声楽) ▶



▲ 井出雪子さん (声楽)

●若い方達の熱演に大変感動しました。他県から参りまして、良い企画だと思います。



津田沙折さん (フルート) ▶

●富士市出身者だけに限定することなく沼津・富士宮出身者も出演できないでしょうか。



伊藤佳奈さん (電子オルガン) ▶

●声楽に出演された方がすばらしかったです。将来が楽しみです。



河野文子さん (ピアノ) ▶



◀ 望月香里さん (声楽)

●男の方の出演者がいなくて残念です。



◀ 西野陽香さん (ピアノ)

●歌をうたっていた人が大きな声でうたっていてすごいなと思いました。

▼ 佐藤美由紀さん (声楽)



臨時バス運行のご案内

自主公演日(大・中ホール)に臨時バスをロゼシアター ←→ 富士駅間で運行します。
迎: 富士駅北口バス停より開演1時間前に出発(240円) ※9月実施の自主事業から運行
送: ロゼシアター北側より公演終了後、富士駅行き(240円)が出發

ホワイエ — INTER MISSION — レポート

チェコ国立ブルノ歌劇場「カルメン」公演より



公演は全体を通して舞台、とくに照明が良い仕上がりを見せてくれました。今後もオペラを中心に多くの方が楽しめる公演を期待しています。(村松さんは公演後「カルメン」の感想をお手紙でお送りいただきました。ありがとうございました。)



昨年の「椿姫」に続いて2回目の鑑賞です。人間の声のすばらしさに驚きました。現在劇場の勉強をしています。参考にになりました。



蒲原の看護学校の学生です。この日を楽しみにしていました。舞台を見るたびに何かを感じます。劇団四季のように私たちも患者さんに笑顔で生きる感動を伝えていきたいです。



仕事仲間でミュージカルを観劇しています。先日「ライオンキング」を観てきました。現実を離れ舞台の世界に没頭できますから、これからは皆さんのミュージカルを公演していただきたいですね。



「ありがとう」
ロゼチケットセンターに勤務して早くも半年が過ぎました。うっかり慣れぬいたずらやお客様から鋭い指摘を受ける事も。しかしお客様に少しでも良い席をお求め頂くこと、一生懸命説明したり一緒に考えたり、そしてお客様が「ありがとう」とひとこと言われて帰られるのがとても嬉しくてこの一言を聞くために今日もがんばっています。

◎楽器(表紙)インタビュー◎
トロンボーン
河野 豊さん
富士市 浅間上町在住
吉原一中よりフランス・サウンド部でトロンボーンとトロンボーンを演奏、日本芸術学部を卒業しプロとしてデビュー。テレビの音楽番組などでバンド演奏をしたり、東京パンチオスの首席トロンボーン奏者として活動していました。
現在は富士市に戻り、ニューウインドマシンのリーダーとして各地でコンサートを開いています。今後は今のメンバーで緻密なアンサンブルを作り上げたいですね。

「チケセン夏子」

チケットのお申込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

■すみや 富士本町店 ☎(0545)63-2233
富士中央店 ☎(0545)60-4567
富士市民センター ☎(0545)61-6262
ラ・ホール富士 ☎(0545)53-4300
■チケットセン沼津 ☎(0559)61-2405
■カワセ書店 吉原店 ☎(0545)51-9027(代)
■廣岡店 富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255(代)
■吉原駅前店 ☎(0545)51-5227
■三島g(アイズ) ☎(0559)73-3003
■ユニサービスカウンター 吉原店 ☎(0545)51-9027(代)
■富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255(代)
■吉原駅前店 ☎(0545)51-5227
■三島g(アイズ) ☎(0559)73-3003